

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272200132		
法人名	有限会社グループホーム天意		
事業所名	グループホーム天意		
所在地	長崎県五島市大荒町1310番地12		
自己評価作成日	令和 2年 8月 20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ旬の野菜、鳥の鳴き声で季節を感じながら穏やかな日々を過ごしています。理念に基づいた家庭的な雰囲気の中での、共同生活で残存機能を発揮して頂き、満足感が得られるように支援に努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは家族との関係性を重視し、家族に向けた手紙に入居者の写真を載せるほか、LINE(SNS)を通じて入居者の日頃の様子を伝える際に家族の意見や要望等を聴き、サービスの向上に繋げている。また、入居者は地域の祭りや運動会への参加や、ホームで開催する敬老会や誕生会などの行事に家族の参加を促し、ともに楽しむことができている。自然豊かな環境の中、ホームでは旬の食事を提供することを大切にしており、近所の畑で栽培された採れたての野菜を食卓に並べるなど季節に合った美味しさを入居者が味わえるよう取り組んでいる。また、献立を入居者に決めてもらったり、食事の下ごしらえや下膳を行ったりするほか、洗濯物量みや趣味の作品づくりなど入居者個々に応じた環境を整え、入居者がその人らしく自己決定できるよう支援している。コロナ禍の中、今年度は従前のような地域交流はできていない状況だが、入居者は庭先での外気浴や近隣での散歩のほか、共用空間に季節の花を飾りクリスマスに向けて準備を行うなど、日々の生活をゆっくりと穏やかに過ごしていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム天意

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と元気で暖かい介護でほっとする家庭」スタッフ全員が目標に一日一日を有意義に過ごされてる。	ホームの理念である「笑顔と元気で暖かい介護で、ほっとする家庭」を誰もが目に付くよう共用空間に掲げ、毎日行うレクリエーション時には職員と入居者がともに唱和することでホーム全体への理念の浸透と具現化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、クリスマス会、ホームの大きな行事には地域の住民や近くの保育園児に声掛けて協力していただいている。	入居者は地域の祭りや運動会への参加や、ホームで開催する敬老会や誕生会などの行事に家族の参加を促し、ともに楽しむことができている。コロナ禍の中、今年度は地域との交流を自粛しているが、ホーム内でのミニ敬老会や誕生会などの行事については規模を縮小し実施している。管理者は今後の地域の感染状況を踏まえて地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方、面会に来て下さった方より相談を受けた時はアドバイスし些細な事でも支援できるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度町内会長さんや市職員も参加されたうえで行事等の報告や他者の意見を聞き入れ実践につなげている。	運営推進会議は地域代表として町内会長のほか、市職員・ホーム長・職員・入居者・家族参加のもと開催している。会議ではホームの運営状況や入居者の利用状況、行事報告、職員の研修参加状況のほか、今後の予定等を説明し、参加者からの意見や助言を協議し、ホームの運営に活かしている。	運営推進会議においてホームでのヒヤリハットや事故を報告しているが、運営推進会議議事録にも状況が分かるよう記載することが望ましい。また、現在身体拘束が必要な入居者はいないが、身体拘束への取り組み状況など現状が分かるよう報告し議事録に記載することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内や実施報告、退所、入所届出介護保険更新認定申請等、医療券等の発行受診などについての相談と連携を行っている。	五島市長寿介護課職員が運営推進会議に参加し、ホームの現状や課題の共有を図り、必要な助言を得ている。生活保護や金銭管理、成年後見制度の利用などについては必要に応じて市担当職員のほか、社会福祉協議会や地域包括支援センター等と連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア、スタッフ全員で話し合い拘束について理解し拘束しないケアをしている。	訪問調査時において身体拘束が必要な入居者はおらず、センサーを使用している方もいない。ホーム玄関の施錠は防犯上の観点から夜間のみ行っている。職員は身体拘束・虐待に関する外部研修に参加し、研修参加者が講師役となって内部研修を通じて職員間で共有を図っている。ホームでは身体拘束をしないケアの実践に努め、実践状況を運営推進会議で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会は二ヶ月に一度は必ずしてる。スタッフ全員が理解し心掛けケアにあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利担当職員に質問したりご家族の相談にものってる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご利用者、ご家族に見学していただき説明を行っている。契約後は不平不満がある時には気軽に申し出るよう日頃より伝えているし、問いかけや不満、訴えを聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が地元で馴染みの関係が出来ている。面会時は家族の方スタッフお互いが遠慮なく何でも会話されてる。	ホーム玄関に意見箱を備え付けているほか、家族が訪問した際に職員が意見や要望等を聴き取り運営に反映するよう努めている。これまでに苦情に至ったケースはない。定期的に発行するホームだよりには入居者の写真を掲載しているが、家族の意向により写真の掲載ができない方は手紙などで入居者の情報を伝えるといった個別対応を行っており、家族の意見を反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、時には個人的に気づき意見を言いやすい雰囲気作りに努め運営に反映するようにしている。	定期的なスタッフ会議を通じて職員から意見や要望、提案などを聴取し、職員が提案したレクリエーションをホーム運営に取り入れるなど入居者支援に活かしている。近隣には宅老所やデイサービスなどの系列事業所があるが、異動も少なく職員が入居者との関わりを継続できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい勤務時間の調整や楽しくやりがいのある職場作りのため施設長、管理者ともども努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ多くの職員が研修を受けられるように配慮して。研修に行かれた人の報告会もその都度行ってる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、交流会等は出来る限り多くの職員が参加し質の向上に努めてる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、困っていること、何をどうしたいのか求めていること等を伺って安心して日々過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の方々にとって何が困ってるか大変な事は何かをお聞きする。不安、要望等を聞きスタッフ全員で受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスは何かを見極め、全職員で話し合いをしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、後片付け、体操、レクリエーション等を職員と一緒にしておりそうした共同生活の中で利用者さんから何かを学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には面会時は日頃の状況をお伝えした上で更に要望等もお聞きして遠方の方には手紙、ライン交換をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の方と一緒に馴染みの店に出掛けたり、お友達の美容室にお連れしたり支援している。	これまでは入居者が馴染みの店に行って買い物を楽しんだり、大型車を利用してホーム全体でドライブや花見に行ったりするなど取り組んでいた。今年度はコロナ禍の影響により自粛している状況の中、移動販売車にホーム敷地へ寄ってもらい衣料品などを入居者自ら選び購入するなど、本人がこれまで大切にしてきた関係性を考慮し自己決定の機会が損なわれることがないように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	3度の食事、おやつ時の席の工夫をその都度して。レクリエーション、散歩時等職員は互いの関係を配慮し支援し努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度ホームに入居された方とのご縁を大切に退去後も機会をみて入院先に面会に尋ねたり時には買い物のお手伝いをしたり相談をうける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントによりこれまでの生活ぶり趣味などを把握、コミュニケーションを図りながら望む暮らしの支援に繋げる	職員は日常生活の中で入居者とのコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努めている。また、共用空間の席の配置を入居者同士の関係性を考慮した物に変更したり、帰宅願望が強い方には思いに寄り添う言葉掛けに留意し、必要に応じて家族にも協力を求めながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報によりこれまでのサービス状況を把握することで共有目標に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の出来る事得意なことを見極め常に職員間で話し合い把握しながらその時の体調、精神状態に応じて無理せず本人の意向に任せている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が面会に見えられた時ご本人を交えて話し合いを行っている島外の人にはお電話で話を聞いている。職員会議でカンファレンス、モニタリングを行い介護計画を作成している。	ホームでは入居者が望む暮らしとの方が持つ残存応力を活かし、入居者自ら役割を持つことや自主的に動作できるようなケアプランを立案するよう心掛けている。ケアカンファレンスを通じ、入居者がその人らしく主体的に生活が継続できる視点で意見交換し、職員間で共通理解を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにチェックを行い職員が情報を共有できるようにしている。実践結果から気づき見直しなども話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診援助、友人親類宅への訪問援助希望の外出などのできる事は柔軟な対応をしている。中学生の職場体験実習の受け入れやボランティアの希望があれば受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシー事業所と協力を得て、買い物等を楽しく安全にできるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御家族に希望をお聞きし要望に沿って対応している。身体状態の異変や異常には早期発見、受診を心掛け症状によっては医療機関をご家族と相談している。	ホームでは第1木曜日にホーム協力医による訪問診療を実施している。皮膚科や歯科などの専門医療機関への受診の際には職員が付き添い支援している。また、緊急時や遠方の医療機関への受診には家族に付き添いの協力を仰いでいる。更に、薬局とも連携を図りホームへ薬を届けてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者の細やかな異変に気づき確実に報告し合っている。主治医に相談したり早めの受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は施設長、看護師が対応に当たり病院関係者やご家族等との連絡を取り合い情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化、重度化となった場合はご家族、主治医、施設長、看護師、職員皆で話し合いをしている。	ホームで看取り支援が行えるよう看取りの指針と同意書を整備し、入居時に本人及び家族へ説明している。4年前に看取りに対応して以来ホームで看取りは行っていない。家族からホームでの看取り希望があれば対応するが、医療的措置が必要な場合は医療機関や特別養護老人ホームといった選択について説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルもあり看護師から常に応急手当は教えてもらっている。状態によってはすぐ施設長、看護師さんがかけつけてくれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の避難訓練は年2回総合(通報・避難・消火)を消防署の職員、時には近所の方にも参加していただき職員も全員参加で取り組んでいる。	避難訓練には町内会長の協力があるほか、隣接する宅老所及びデイサービスセンターの職員が参加し協力体制を構築している。訓練時には消防署員より助言を得て防災に活かすよう努めている。訓練後の反省点として「出火場所に行くときは消火器を持っていく」「大きい声で知らせる」「お互い声を掛け合いながら連携する」と課題を具体的に記録に残し、改善に活かすよう努めている。	自然災害が顕著となっている現状を踏まえ、マニュアルに沿った勉強会を開催するなど防災意識を高める今後の取り組みに期待する。また、ホーム内に整備している備蓄品の賞味期限などを適切に管理できるように一覧表を作成することが望ましい。更に、避難時に持ち出す物をまとめ保管しているが、すぐに持ち出せる状態であるかを話し合い、必要であればすぐに持ち出せる場所へ保管するなど検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライドを損ねない言葉遣いや対応に配慮している。	職員による入居者への言葉掛けや口調について馴れ合いになってしまう場面もあるが、管理者が気付いた時点で注意し改善に努めている。また、入居者に危険が及ぶ場合以外は声のトーンが強くないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ選択の幅を持たせご本人の希望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース気持ちを大事にしなが、買い物、散歩等希望に沿って支援して。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の馴染みのお店の協力のもと出張して頂き沢山の衣類の中から自分の好きなものを選んだり時には職員と一緒に買い物に出掛ける支援して。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には利用者の方にメニューを決めて頂きその人の残存機能を生かし野菜の皮むき、盛り付け、味付け、片付け等を職員と共に行っている。	食事は職員の手づくりで提供し、時には入居者へ献立の希望を聞いて献立表を作成している。入居者は野菜の皮むきや食事の下ごしらえ、下膳を行うなど、本人の残存能力を活かしながら職員が支援している。また、誕生会や花見など季節に応じて行事食を提供したり弁当形式にして本人の要望に応えたりするなど、食事が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分は毎日把握し記録に残してる。その人の状態に応じて、刻み、ミキサー食、トロミをつけてる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き義歯洗浄、口腔ケアを行うように支援している。仕上げは職員がチェックして対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状況を職員が把握できるようにしている。食後は排泄誘導や声掛けを行い対応している。	入居者の多くが排泄を自立しており、職員が入居者毎の排泄パターンの把握に努め、その方に応じてトイレへの誘導や声掛けをし、排泄を促している。また、便秘傾向のある方にはヨーグルトやバナナ、食物繊維がある食材を提供し、自然排便を促すなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材バナナ、ヨーグルト等で調整してる。主治医に相談して服用等対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は必ず入っていただいている。入浴時間、順番は希望に沿ってなるべく希望通りに入浴できるように努めている。	ホームでは夏場は月・水・金曜日、10月からは火・木曜日と入浴日を設定し、おおむね午後1時半から3時の間で入浴支援を行っている。失禁時等の際はシャワー浴のほか、必要に応じて身体清拭を行い清潔保持に努めている。入浴の順番や入浴時間などについては入居者の希望に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促してる。その時の状況で安心して休息や睡眠できるように支援してる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関することは日々の申し送りで確認し更に細かく記録するようにしてる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人のできる力を生かし料理のお手伝い、片付け、新聞折り等の声掛けをし支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外食等の支援をしてる。ホールの前で昼食会、お茶会もしてる。	職員は入居者行きつけの美容室や近隣周辺の散歩に同行したり、家族行事などで外泊する場合は家族に協力を仰ぎ介助方法などの必要な助言を行ったりするなど、多様な外出への希望を実現できるよう取り組んでいる。現在はコロナ禍によりホーム全体での外出は行っていないが、管理者は今後の感染状況を踏まえて外出を増やしていく意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時は本人さんから出し入れできるように支援してる。自動販売機で好きな飲み物を買われてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時にかけられるように支援してる。お手紙はスタッフが代筆時には写真を同封してる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節の花を生けてる。利用者の方が好むCDを流してる。	ホームでは毎朝職員が清掃を行い共用空間の清潔保持に努めている。また、ひな祭り・七夕・クリスマスといった季節の飾りつけを職員と入居者が一緒に行い、必要に応じてケアプランにも反映し実施している。共用空間は採光良く不快な臭いや刺激を感じることもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にソファを置き気の合った人同士好きな時間に会話を楽しまれてる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、お気に入りのぬいぐるみ等、又はベッドを移動したり、畳を利用したり本人が居心地よく過ごせるように支援してる。	居室の家具の配置等は職員と入居者・家族と一緒に考え、高さや向きなどの調整を適宜行っている。室内にはベッド及び洗面台が備え付けであり、居室への持ち込みは自由に行っている。入居者の使い慣れたものや思い出の品のほか、キリスト像など宗教上の配慮もできている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、風呂場、トイレ等には手すりを設けている。時にはベッドを移動し転倒しないように工夫している。		